第23号

翔生（しょうせい）

Symbol Logomark　これまで各地商工会議所で使用されている商工会議所マークの下に、ゴシック体でデザインしたシンプルで馴染み易いロゴマークとなっています。ロゴは、商工会議所青年部の英語名（Young Entrepreneurs Group）の頭文字をとったものですが、同時に商工会議所青年部の持つコンセプト（若さ、情熱、広い視野をもった経営者ー Youth, Energy, Generalist）を表しています。

YEG

発行　全国商工会議所青年部連合会
〒100東京都千代田区丸の内3－2－2
日本商工会議所中小企業振興部内
☎03－3283－7852

編集　広報委員会
委員長　河合達志
副委員長　新藤明彦
副委員長　吉野　誠
委員　鈴山禎五
委員　千歳　浩
委員　前田泰新

平成9年（1997年）
8月号
通巻　第23号
（年2回　3月・8月発行）

YEG ヤングリーダー研修

「閉塞時代に勝ち残るYEG個性化戦略」

さる7月13日、東京のダイヤモンドホテルで「21世紀・新潮流」のテーマのもと、二百名を越えるメンバーで第一回YEGヤングリーダー研修が開催された。オリエンテーションでは宮川幸久研修委員長のさわやかな挨拶の後、産業連大村晴利会長の思いのこもった挨拶をいただいた。その後研修に入り、「商工会議所の役割と青年部に期待すること」と題して輪業興作日本商工会議所会頭より特別講演をいただいた。次に「閉塞時代を勝ち抜く経営の哲学」のテーマで、柳タナベ経営の田辺昌一社長が熱のこもった講義を行い、最後に政治評論家森田実氏が「甦れ日本」のテーマで興味深い講義を行った。

会場を移しての交流会も各地から集まったYEGメンバーの熱気で盛り上がり、本年のメイン事業は上々のスタートを切った。

大村会長挨拶（要旨）

YEGヤングリーダー研修に参加していただいて有難う。この研修の成果を地元のYEGに、企業に持ち帰っていただきたい。15年の歴史の上に今があります。連綿と受け継がれていくYEG魂をそれぞれの地域に持ち帰り、アントレプレナーとしての役割を果たして下さい。皆さんそれぞれが中心になり、目の前かなければいけない時です。この研修を通して自分を磨き、地域が発展するよう努めて下さい。

稲葉会頭特別講演（要旨）

日本の全体の姿はどうなっているか、日本を客観的に見てみる。日本経済をあまり悲観的に見るのも不正確ではないか。財政破綻についても極端に言われていると思う。日本がメチャクチャな国ではないことを客観的な事実で明らかにしたい。一人当りのGDPは米韓よりも高く世界トップクラス。経済成長率、最近は3%、G7でもトップ。インフレ率は一番低い。雇用も安定しも悪くない。日本の技術開発費は米国の約4千億、米国16兆ドに対して一人当りでは断トツ。これは将来の果実をもたらすものである。

また日本は比較的安全である。北朝鮮から来日した警察官が新宿の歌舞伎町を巡回して、こんな安全な所は世界にない」と言い、出張先を出み出す。3年の成長分4500億ドルで韓国のGDPを抜き、13年で台湾を抜く。又アジアへの資本投下も多く、「アウト・アウト」「アウト・イン」合計すると約40兆円。日本全体の輸出業とほぼ同じ。空洞化しながらも海外のメリットのある地点に技術や資本が投下され、海外の雇用に貢献している。逆外国から、逆に日本から投資して欲しいと要請されている。

21世紀は変化の激しい時代になる、こういう時、ミレニアム、1999年単位で物事を見ることも大切。2001年から3999年迄の最初の年、日本の1000年前は源氏物語が書かれた時代。しかし百年の間でもプロンティアがない。低成長が実用化するまでには30年は掛かる。二酸化炭素の問題等影響を実感できない時代である。

結論としては日本人の持つ文化を整理して認識することが必要。日本には「コンセプトの発明がない。コンセプトをつくりだすことが必要。21世紀、大変な時代であることは間違いない。天命を知って人事をつくす」ということだと思う。

田辺社長講義（要旨）

私はふんどしかつぎの時に感銘になるのを見つける商業がある。見つけるキーポイントは「志」。経営者の先代は夢と情熱と決断と行動で、どれが欠けてもダメ。全て一人から始まる。

今、日本は大転換期と言われる。政治、経済、文化全て混沌。こういう時、人生に対する仕事に対する姿勢が大切。日本にリーダーがいない。リーダーがしっかりしなければダメダメ。今日本はやることがいっぱいある。

ゼロからスタートして成功するりけつは「現金商売」「売利率33%は上々。分からないことはお客さんに聞く。第一ボタンをかけ違えない。第二ボタンは医利益。「商大学なのはお客さまであり、経営の原点は現品、現場、現実の二現主義である。そしてお客様第元のために因右技術を持つ。

会社は社員の器は上に大きくならない。原因自分論は成功する人である。原因他人論は倒産する人である。

森田先生講義（要旨）

現代は改革、革命の時代。今の日本の状態が苦しくない。なぜかと言えば経済が良くないことと、国の財政力がなくなってきていることによる。1960年代は黄金の時代だったが、オイルショックによって転換した。

英国病のイギリスではサッチャー首相が出現。行政改革、規制緩和を断行した。これによってイギリスは全滅、通信の主導権をにぎった。現在のブレア労働党も基本的にサッチャリズムを受け入れている。米国は80年代の改革がうまくいって現在繁栄している。

ひるがえって日本では橋本首相が6大改革を提唱している。そのなかでも金融改革、日本版ビッグバンが先行している。しかしまだまだ遅のりは遅い。今日本の政治で気になるのは議論が全く低調だということ。保保連合とか沖縄問題とか大きなテーマもある。早目に経済革をやるのか、来田町の連帯でやるのか、政治家の見識が問われる時だと思う。

以上の研修を終えて、多くのメンバーから、「おもしろかった」「感謝になった」「次回も是非参加したい」との評価があった。一方で、「皆さん改革の時代と言われたが、その改革の元になる考え方は何なのか」コンセプトの発明、ミレニアム、輪業興さキーワードはあったように思うけど、まだ分からない。自分で考えなければいけないことなのかな」と一部の研修では問題点を自覚しきれない参加のメンバーもいた。真剣に学び考えさせられ、そして楽しいYEGヤングリーダー研修であった。

（文責　出張委員会）

■平成9年度年間スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ブロックの動き、全国大会、中部地区、全国青年部総会	○3月末日まで 年度行政書士会大会申請 全国商工会議所青年部連合会 総会、理事会、（三役会議） 懇親会	○年度行政書士会大会申請

直接交流　直接実感

連携そして共生へ YEG新たなる出発!!

平成9年度ブロック大会 PRメッセージ

『無限の創造／最大の行動力／YEG新たなる挑戦／』

北海道ブロック■登別大会

今回のトップを切って、9月4・5日に北海道ブロック大会を「湯の街　登別」で開催いたします。

広大な北海道に住う、農業及び漁業の盛と自然の厳家で、一緒に汗を流しながら語りかいませんか？（入場料の飲酒はチケット？）

4日の記念講演では　北野　大　（慶應大学教授）

の江野とけしの実況ですナノの講演を登別出身と一緒に聞いてください。

式典では百でもおの、剣舞ショは鬼、鹿、獅子舞し入り乱れての壮絶なバトルでお迎えいたします。

5日の分科会では、温泉を使っての健康入浴法などという一風変わった分科会など、13分科会を予定しております。

「湯の街　登別」で新のつきあいからの交流、交流から連携、連携から共生へと大いに、YEG連携を深めてください。

登別YEGは今年で設立4年になります。

YEGメンバー　街づくり、町おこしにさらなる努力をしている中で、北海道ブロック大会を通し、全道　今回のYEGメンバーとの交流、情報交換が出来る事に喜びを感じています。

国際観光レクリエーション都市　登別は温泉、地獄谷　鬼　熊　狸　時代村　クリンパーク　入　天然園　ゲ　教場　一　で全国　今回のYEGメンバーをお迎えいたします。

問い合せ先

登別商工会議所青年部

登別市中央町五－六－一

TELO143-83-4111　FAXE143-83-4369

東北ブロック■古川大会

「ゆめの音」「ゆめの色」「ゆめの街」夢から実現へ出発(いくぜ)!!

私達が作ってきたものはシルクロードミュージックフェスティバル（ロックオーケストラ「夢の楽園」）と、神楽とおおぼスターコンクール（ふるさとカラーメン）。

この3本柱を中心に、街づくり、町おこし、また産業を通して団体の枠を越える連帯をしてきた人との出会い、新しい自分の発見？これが「私達が作って来たもの」古川YEGの9年の歩みです。

そして、今年10周年を迎えるとともに、東北ブロック大会という当青年部にとって最大の活動の機会を得ることになりました。

過去の諸事業を見ると、式典会場、分科会会場、懇親会会場等、充実した条件の整った大会の多い中、古川市は、いろいろな面で「歩き」多も備えているというのが現状です。しかし、こうした条件下での開催は、いろいろな意味を持っていると思います。

私達の10年の活動を通して、記憶に残る出来事をもっともっと広み良い、楽しい街にするために、この大会を成功させたいと考えます。また、若角がいて？ある各地YEGメンバーにも有意義な時間を過ごしていただきたいと思います。

東北大会は、私達が組織したことのない、とても大きな知のイベントですが、今まで実施してきた数自分活動、参加お疲れ様であることをおれに、地のず古川おらしきを会議に出していきたいと思います。

「私達が作った、オリジナルの東北ブロック大会をやって皆さんに見てもらいたい」そんな気持ちが持てるような事業を推進しながら10年間の集大成であると共に新しい古川YEGの出発の機会となるよう、会員一同努力して参る所存ですので、皆様のご来たと心からお待ちしております。

問い合せ先

古川商工会議所青年部

宮城県古川市東町七－四六

TELO229-23-0088　FAXO229-23-3500

北陸信越ブロック■新発田大会

「こんにちは」

新発田市は新潟市の北東部の位置にあり、人口約8万3千人の阿賀野川以北では最大の都市です。市の緑あふれる田園と北部市という概況でもわかるように、四季折々に彩る桜やアヤメの名所があり、市内外から訪れる人の目を楽しませています。また16万石の城下町として、幕末には吉田松陰が訪れその繁栄ぶりを記録に残しています。

そして今年で市制施行年、新潟県議会開設50年を迎えます。さらに、来年には新代藩主溝口秀勝公が青葉の命により移り住んでから四百年を迎えます。その記念の年に北陸信越ブロック大会を開催でき、YEG会員の皆様をお招きできる事は誠に喜ばしいかぎりです。

YEGの活動としては10周年を迎えた、春秋のフリーマーケット、出張法華祭、地下町四百年を記念した猪瀬「あやめ小町」の創造、そして、夏の新発田まつりにおける全国大会、これは山野市での全国大会における新田YEGとの交流から生まれたもので、新田の天然みつしを新発田市に呼んだのが始まりです。

9月11日のブロック大会では分科会を中心に、触れ合い語りの深い合う絆を取りたいと思いますので、皆様のお越しをお心よりお待ちしております。

問い合せ先

新発田商工会議所青年部

新潟県新発田市中央町四－一〇－一〇

TEL0254-22-5257　FAXO254-43-5288

関東ブロック■深谷大会

彩の国　歴史に学ぼう青淵の郷で！

「彩の国　歴史に学ぼう青淵の郷で」

これは、平成9年度関東ブロック大会深谷大会の開催テーマです。当深谷は、大村会長を輩出している埼玉県の北部に位置し、人口18万の小都市です。

江戸時代は、川越町あるいは、荒川・利根川舟運の物流基地としての河川港として栄え、現在は商業・工業・農業とも発展し、バランスのとれた地となっています。

そんな街で、第17回関東ブロック大会深谷大会が開催されます。深谷YEGメンバー232名は石さと誠実と実知を出し合い、一丸となって大会準備に邁進しています。

大会は、テーマにある様に「郷土の偉人　渋沢栄一（歴史学ぶ）」を中心に据え、明治維新の偉大な経済の先覚者渋沢翁から何かを持ち帰っていただこうと考えています。明治維新イコール平成維新イコールYEG四半世紀、新たなる出発？

あて、内容は1部式典、2部アクションショー、3部分科会、4部大懇親会となっています。

「YEGの皆様に楽しんなから学んでもらう」との考えから懇親会の代わりにアクションショーを企画しました。深谷以外のYEGの皆さんの協力を得て、盛大に行いたいと考えています。

分科会は、4分科会（渋沢記念館等）、大懇親会も一つの会場で行います。是非とも深谷に来て、直接交流をし、直接来感じて頂きたいと思います。

深谷YEG一同心よりお待ちしております。

問い合せ先

深谷商工会議所青年部

埼玉県深谷市仲町二〇－一

TEL048-571-0245　FAX048-571-8522

近畿ブロック■加西大会

よってこって華彩・青年部パワー炸裂！

「よってこって華彩・青年部パワー炸裂！」

平成9年度第13回近畿ブロック大会の開催地テーマは、よってたかって加西市へ、そして国府に集結したYEGの力を発揮させ、各単会へ各個人へという我々の思いを表しています。

当所青年部は、昭和46年に商工会青年部として設立され、現在は昭和62年に商工会議所に移行したために、商工会議所青年部として11周年を迎えました。

その間、何度か組織改革を行いながら、商工会の外からYEGの仲間へと交流の輪が広がっていき、連帯化に欠かせぬ場から宿泊所・会場の大部作まで、さまざまな運営実績がありました。

各単会内での青年部員の青年部に対する意識の差異はもちろん、各単会における存在基盤の違いから生じる活動目的の差異は、今後どのように我々が取り組んでいけばよいのかをこの大会で何らかのヒントが得られればと思っております。

加西市は、兵庫の中央部に位置します。そして、兵庫県は日本海、瀬戸内海、太平洋に面し、豊富な地質、山岳、高原、海岸、河川等の自然と、さまざまな文化・風土を織りなしています。

どうか、8月8日は「よってこって加西市へ」皆様方のお越しをお待ちしております。

問い合せ先
「インターネットでのお問合せ」
http://www.nanairo.ne.jp/kosaiyo/
加西商工会議所青年部
兵庫県加西市北条町東中一一一五
TELFAX 0790-42-1133

東海ブロック■久居大会

来て・見て・感じて久居の湯と街

今回のYEGのお客さんこんにちは。今年度、10月3日に東海ブロック久居大会を主管開催させて頂く久居YEGです。

久居市は、三重県の真ん中に位置し東西に細長い田です。特に榊原温泉は、日本三名泉として、遠く鎌倉時代から牧歌子に歌われた、なつかしの湯のことです。平安期には「河曲」と呼ばれ、江戸時代には藩領地として栄えました。又、久居かぶいと言う歌舞は、伊勢名物、藤堂高虎公が、永久に繁栄するとの願いを込められた出雲おどりを源流とする歴史的にも古い伝承に、入っていただきその地方での公演会、そして、大会会場での公演会を予定しています。ぜひ皆さん、この大会に多数の参加をしていただき今回のスローガンである、"来て・見て・感じて久居の湯と街"を実感してください。

この地に集まる各単会YEGメンバーの皆さんに満足出来るような色々な趣向をこらした大会・分科会を我々久居YEGメンバー一人一人が考え準備しています。どうか、久居の良さを物っていただき、本大会を通じて多くのYEGメンバーが出会いと共感が図れる場を大いに楽しみ、そして、地域活性化で現在まで大製造会が楽しみ、各単会YEGメンバーの皆さんと語り合おうと思います。

どうか、皆様のご参加をなるようお待ちしております。

問い合せ先
久居商工会議所青年部
三重県久居市本町（三四七）
TELFAX 0592-56-2621

中国ブロック■岡山大会

バンザイ！岡山で会えてよかった！

今年度、第15回中国ブロック大会は岡山市において10月17日(金)・18日(土)開催されます。今年岡山では、花を添えて後楽園開園350年の大イベントを開催しています。また岡山自動車道開通に伴い、中国横断自動車道（中四）さんかいラインの全通、倉敷チボリ公園のオープン（7月）などにより岡山は、今大きく発展しています。このような中で今大会は、にぎわいと華やかの中で商業交流を結び、さらに企業と地域社会を担う青年経済人としての自覚、商工会議所青年部の役割を実感する場とともに、大いに楽しんでいただける大会を目指しています。YEGメンバーの皆様、岡山の地へお越しください。お待ちしております。

「バンザイ！岡山で会えてよかった！」

今大会の開催主旨がご理解頂けるように思い、さらに目的を達成するために、「浸透」・「共生」・「出発」へのエールであり、弥生期と地域社会を担う青年経済人としてのさらなる活躍へのエールでもあるこれより発せられる合言葉「バンザイ！」を使用し、「交流」や「実感」の原点は「直接」人と人とが出会うことに意義があるとし、「岡山で会えてよかった！」という目的の成功をも祈念した言葉を連結いたしました。

問い合せ先
岡山商工会議所青年部
岡山県岡山市厚生町三－一－五
TEL0867-227-2151 FAX0867-227-5561
E-mail: ※未定 @ GEN.ne.jp
http://www.okayama-ne.jp/oisyo/

四国ブロック■伊予三島大会

YEGカーニバル紙ing伊予三島！

本年9月26日(金)27日の両日、愛媛県の伊予三島市におきまして四国ブロック大会を開催します。当伊予三島市は、人口4万弱の小さな市です。市街地の北には風光明媚な瀬戸内海をへだてて遠く中国山地の山々が望めます。背後には谷あいやまに囲まれ秋きおろす険しい四国山地の山並が迫なり、豊かな自然にあふれています。

また、開催地テーマにもありますように、古くから製紙業・紙関工業が盛んで、おもな生産品として新聞用紙・印刷用紙・ティッシュペーパー・トイレットペーパー・ノート・封筒などいわゆる「おもから紙おむつまで、製品が多種にわたっています。これは全国にも例がなく、全国的な紙の生産地として世界に誇れています。二日目以上の伝統を有する紙すき体験は、現在でも手漉き和紙をはじめとするさまざまな産品の中にはあります。

○開催日時　平成9年9月26日(金)・27日(土)
○式典　27日(土)　10時30分～12時
○懇親会　26日(金)　18時～20時30分
○分科会　27日(土)　13時～16時

問い合せ先
伊予三島商工会議所青年部
愛媛県伊予三島市宮川西一六一五
TELFAX 0596-52-0204

九州ブロック■中津大会

「独立自尊」自由奔放、福沢精神今ここに

▲中津城

全国YEGメンバーの皆様こんにちは！

大分県・中津YEGは来たる9月20日(日)に、第17回商工会議所青年部九州ブロック大会を主管開催します。

中津市は、奥平氏10万石の城下町、藩都として古の薫かしい伝統が数万ある訪ね歩くに飽きを感じ頂けます。1万円札の顔、福沢諭吉先生の出身地でもあります。「福沢諭吉先生の生誕地」、あらためてその業績の偉大さに驚かされます。

「独立自尊、自由奔放、福沢精神　今ここに」

これは、今大会のテーマです。平成8年度「人が輝く、地域が輝く　今、起げようYEG運動」の表看板スローガン時に、今大会のテーマを「福沢先生の「自由奔放」を実感する」と連携をして共生へ、YEGに新たなる出発」というスローガンを少しでも近づけるよう努力を致しております。

中津YEGは、今年10周年の節目を迎える単会であり、この大会を機に更なる発展をめざして、又、「青年会議所活動の一環を担う」という精神の一部を胸に秘めて、実り多い大会にすべく会員は頑張っております。

歴史と文化の香り豊かな我が中津へお越し下さいませ、お待ちしております。

問い合せ先
中津商工会議所青年部
大分県中津市殿町（三八二一）
TELFAX 0979-22-2256 FAX0979-22-1358

来てみい！見てみい！阿波の国'97徳島発 今始まる世界連携新時代

■大会会長

●北島 重利
●'48年6月5日生
●双子座・A型
●甲南大学経済学部卒業
●総合建設業
●趣味・海外旅行
●楽しい大会にしたい

■大会副会長

●福島 正
●'50年12月17日生
●射手座・A型
●明治大学経済学部卒業
●各種情報通信機器販売
●趣味・旅行
●おもてなしには絶対の自信あり

■実行委員長

●夏後 重之
●'51年11月11日生
●蟹座・O型
●関西学院大学法学部卒業
●ビルメンテナンス業
●趣味・ゴルフ
●思い出の残る大会を目指します

■副実行委員長

●松村 啓
●'44年3月11日生
●乙女座・B型
●京都産業大学経済学部卒業
●和菓子製造販売
●趣味・旅行・パチンコ・酒
●楽しい全国大会に

スタッフの熱き思い!!

●今津 光雄
鳴門YEG会員一同、全国の皆様のご参加を心よりお待ちしております。鳴潮のまち鳴門へも是非お越しください

●徳長 正敏
心なごむ大会を開催したい

●川真田博敏
徳島を思い出にしてください

●益 幹人
青い海・緑園へ是非お越しください

●久米 良久
もてなしの徳島（幸福実現）

●塚 克由
こなんだら頑張るでよ

●喜多 修司
YEGの歴史に足跡を残そう

●高野賀太郎
徳島及び阿南の地が皆様方の思い出に残るような大会を目指します

●佐藤 允男
心をこめて最高のお接待を

●野々宮先造
可能性を探る

●神崎 清明
全国の人々に徳島を位置づける大会にしたい

●中谷 好行
沢山の人と出会い、話ができるのを楽しみにしています

●橋 学
友情の輪を全国へ

●野仕栄次郎
充実感を感じる大会のPRにつとめます

スタッフの熱き思い!!

●近藤 寛
変革時代の情報社会の中で自然に恵まれたのんきな徳島で、ホット一息楽しんでヒューマン・ネットワークを築いて欲しい

●柴田 政美
もう一度徳島に行きたいと思われるような大会にしたい

●森浦 孝光
快適なナイトライフを用意します

●鈴木 豊
徳島で友人をたくさん作ってください

●山松 高志
徳島にきてよかったと思える大会にしたい

●松内 勉博
大会がAsia Tokusima Dreamの基となるように

●藤田 重四
夜のサービス（案内）に頑張ります

●元木 覚
全国トップクラスのおもみよい徳島で皆さんが満足していただける大会を目指します。新しい出会いを期待しています。

●今山 秀人
全国の皆様との交流を楽しみにしています

●清田 直昭
元気・健康で

YEG

徳島大会開催要綱

1. 目的
本大会は、商工会議所青年部の一員を担う全国各地の青年経済人が、交流と研鑽を通じて次代への先導者としての意識高揚を図る。併せて、新しい地域文化の創造と豊かで住みよい地域づくりに向けた提言と実践について認識を深める。以て、地域経済社会の将来にわたる健全な成長・発展に寄与する事を目的として開催する。
2. スローガン 「直接交流・直接実感」経験そして共生へ、YEG亜ビジョン21
3. 開催地キャッチフレーズ 「YG徳島発 今 始まる世界連携時代」
4. 主催 全国商工会議所青年部連合会、日本商工会議所
5. 後援 徳島県商工会議所青年部連合会
6. 協賛 産業界各社、徳島県、徳島市
徳島県商工会議所連合会、徳島商工会議所、(財)徳島コンベンションビューロー
7. 開催日時 1997年11月21日(金) 9：30～20：00
22日(土) 9：30～17：00
8. 大会会場 徳島県立産業観光交流センター（愛称 アスティとくしま）
徳島市山城町東浜傍示1 電話 0886-24-5311
徳島プリンスホテル
徳島市万代町3-5-1 電話 0886-24-1111
新町川水際公園
9. 参加者 商工会議所青年部会員及び商工会議所役職員
商工会議所青年部OB会員
10. 参加料 1人 11,000円（徳島会費を含む）

11. 日程
■1997年11月21日(金)
正副会長懇談会 7：30～8：30 徳島プリンスホテル
理事会議会議 8：30～12：30 アスティとくしま
登録受付 10：00～18：00 アスティとくしま
YEGのお店プラザ 13：00～18：00 アスティとくしま
（業種別分科会 15：30～20：00）
記念分科講演会
I 我が社の世界戦略 13：30～17：30 ジャストシステム
II 〃 「金融」 大阪証券取引所
III 〃 日亜化学工業
IV 〃 沖縄メリクロン
阿波の文化探訪 13：30～17：30 鳴門市(1番札所)ほか
会員総会 13：30～14：30 アスティとくしま
YEGまちかどし物語展
(阿波フェスティバル) 12：00～17：00 新町川水際公園
DBサロン 14：00～17：00 アスティとくしま
大懇親会 18：30～20：00 アスティとくしま
■1997年11月22日(土)
登録受付 9：00～16：00 アスティとくしま
YEGのお店プラザ 9：00～12：30 アスティとくしま
記念式典 10：00～12：30 アスティとくしま
1. 全国商工会議所青年部連合会旗入場
2. 開会宣言
3. 「若者代」斉唱
4. 「商工会議所青年部の歌」斉唱
5. 商工会議所青年部「唱歌」朗読、「独唱」唱和
6. 全国商工会議所青年部連合会会長挨拶
7. 日本商工会議所会頭挨拶
8. 徳島県商工会議所青年部連合会会長挨拶
9. 徳島県商工会議所連合会会長挨拶
10. 主催者紹介
11. 来賓祝辞 通産大臣
徳島県知事
徳島市長
12. 来賓紹介
13. 祝電披露
14. 神戸商工会議所会頭(日本商工会議所副会頭)講話
15. 新潟青年部紹介
16. 次期全国商工会議所青年部連合会会長予定者挨拶
17. 次期開催地挨拶
18. 閉会宣言
YEG金鯱ちかどし物語展 10：00～17：00 新町川水際公園
(阿波フェスティバル)

分科会：11月21日(金)の概要

平成11年度の分科会は金曜日に、次のコースの二本立ての講演会を行なう。

コース名・時間	企業名・講師名	みどころ
定金講演会 13：30～17：30	朝日ソフト システム 定員200名	日本語ワープロソフト「一太郎」でおなじみのソフトウェアメーカートップ企業で、今話題のインターネット／イントラネット環境の構築を推進する、企業内ITシステム設計者をご紹介します。すぐれた日本語処理、多彩なグループワーキング等、最先端のソフトウェアテクノロジーをご体感下さい。
	朝日放送新工場 定員150名	オロナミンCに、ポカリスエット等で有名な大阪制薬傘下のオオツカの大阪新工場などの企業に代表される大阪グループ各社企業です。大阪発としておなじみのオロナミンB錠剤のほか、輸液のトップメーカーとして「信頼の大塚」として、医療中から高い評価を受けています。
	日亜化学工業 定員50名	グラン賞に選出される蛍光体で国内のシェア、世界の4分の1のシェアを占めている日本。世界で初めて青色LED(発光ダイオード)の開発に成功したり、長寿で最も知られる冷凍庫メーカーを開発するなど世界的に注目を集めている企業です。世界最先端の技術をのぞいてみませんか。
阿波の文化探訪 13：30～17：30	沖縄メリクロン 定員150名	シンビジウム(洋ランの一種)の育種とハイテクによる種苗生産で世界の頂点に立っている企業です。有名な「あんみつ姫」、「プリンセスまどこん」、同社が共に誇りおこした品種です。今からの時期が一番の見頃です。シンビジウムの真の美しさ、深淵らしさを体験しませんか。
	鳴門市 (1番札所) 定員150名	鳴門のドイツ館は、ベートーベンの交響曲第9番を日本で初めて全曲演奏したことで有名なところです。また、霊山寺は、弘法大師空海が開創した阿波八十八ヵ所の一番札所で「霊験の寺(願掛成就を祈願し、感謝を捧ぐる寺)」です。ここの参拝・観話により信仰の誠願成就はまちがいありません。

講師：霊山寺住職、芳村敬全氏

●1997年11月20日(木)
親睦ゴルフコンペ 8：00～16：00 サンビアゴルフクラブ
前夜者懇親会 18：00～20：00 徳島プリンスホテル

●1997年11月22日(土)
阿波フェスティバル 14：00～16：00 新町川水際公園
阿波踊りとリオのカーニバル競演

エクスカーション 13：00～
○県側若手経営者との交流と観光イベント
○大歩危・小歩危から高知へ
○鳴門・明石大橋を渡って神戸市へ

情報は、逐次アドレス
http://www.nmt.co.jp/~tokuyeg/
に掲載いたしますので是非アクセスしてください。

平成10年度全国大会「青森大会」に向けて

「思いとビジョン」 後藤 薫

私たち青森商工会議所青年部の取り組みは、ウォーターフロントエリアにおけるイベント『青森祭の祭典』の創出、最大の縄文遺跡『三内丸山』を活用すべく設立された『三内丸山遺跡』への参画等、地域の快適な生活や文化醸成に少なからず寄与しているものと自負し評価されるに至っています。

このような青年部活動の成長線上で、私たちは、①りんご温泉郷全国YEGの仲間の協力と連帯に感謝の気持ちを伝えたい、②『森の日』に新設した『青森海の祭典』、『海の街、あおもり』運動、『三内丸山応援隊』の出張化等々、市民を結びつける役割者となって きた活動を営ない、さらに地域活性化の核になる決意を全国YEGの仲間に伝えたい、③全国大会を、別力なYEGを作るための原点に据って互いに切磋琢磨する重要な機会としてとらえたい。このことを全国YEGの仲間に呼びかけたい。このような『思い』で全国大会を誘致したいと思っています。

また、私たちは、①YEGが地域と地域・地域内外の《結び手》であることを実感、全国YEGの仲間とのネットワークを構築したい、②先に記した運動・イベントが市民の地域への愛情を表現する活動であることを認識し、市民と市民・市民と行政の《結び手》としての役割を果たしたい、③地域政策を自ら発案し実行に移すYEGを目指し、地域政策を現実の経営の形に結びつけていく地域改革の核としての青年部の位置を自覚したい、④会議所の組織と会員の《結び手》に、またりんご温泉郷の際の活動で学んだ第一次産業とのつながりの深さを再認識し、「産業会議所」的な広がりを目指して、商工業と地域産業の《結び手》となりたい。

これら、『宿願』される《結び手》を目指す目標を「ビジョン」を持ってる国大会を開催したいと思っています。

平成10年、青森県商工会議所青年部連合会は設立10周年を迎えます。また、青森市は市制施行百年、青森商工会議所は創立百五年を迎える節目の年となります。その中で、皆さんをお迎えし、相互研鑽をなし、更なる成長を深めることは、私たちにとっても、青森県民・青森市民にとっても新たなるステップを踏み出すことになると考えています。

平成10年11月5日～7日には、おまつりにみられる津軽人のもつエネルギッシュ、縄文文化の底力をも受け継いで築いてきた、東北青森のすばらしさをこの『青森の地』で全国の仲間に是非とも実感してもらいたいと思っています。

平成11年度全国大会「新潟大会」に向けて

新潟県商工会議所青年部連合会
全国大会準備委員会
委員長 中島 善夫

私たち新潟県連は、4年前に全国大会の誘致を協議しました。これまでの大都市中心の全国大会でなく、人口3万人から7万人の小都市青年部が協力しあって、全国大会が開催できるかどうか、県連の役員会で推進となく議論を交わし、全員一致をみなければ誘致はないと云う前提で進みました。当時の県連は、設立20年を経ても組合員もまだ、時期尚早と云う事で、立候補を断念しました。その後、一度ついた火をたやしてはいけないと、翌年に全国大会組織調査委員会を発足させ、全国大会と中部研修会の調査について3年間検討を重ねてきました。

昨年、平成11年度の全国大会誘致地が中地区となり、再度立候補のチャンスが訪れました。11年度の新潟県連の総会において「平成11年度の全国大会招致」を全中会一致で決議し、立候補する事になりました。

折しも、隣の富山県連でも2度目の全国大会招致を決め、この一年間は隣県ブロック内で協議を重ね、最終的には新潟県連に決定させて戴きましたが、この間、しのぎを削る事によって、実りある勉強をさせて戴きました。富山県連は、私共新潟にとっては先輩格にあたり、模範とすべき県連です。その県連と競い合う事で、私共の未熟さを知り、更に磨かなければと思う次第でした。

商業連合から内定を戴き、今年度から県連内に、誘致委員会から、事前協議した全国大会準備委員会が発足しました。各単会からこれの委員が出向し、皆々と参画が進んでおります。

平成12年度の大会会場となる新潟市は、日本海側最大の港湾都市とされ、からのアクセスも早く分かく、山の幸、海の幸、人の幸にも恵れ、全国の皆様をお迎えし、YEGの絆なる交流を深め、連携を築くには最適の地と確信します。その為に、私たち県連は小さいながらも全国大会に丸となって、新潟の心を熱こうおもてなしをする覚悟です。

平成11年に、私たち県連は10年目をむかえます。しかし、未だ小都市青年部7年目の歩まりです。その私たちが全国大会を開催する事で、新たな気運が生まれる事を期待します。小都市青年部でも、連携をする事によって、大きな事業に挑戦できると、全国YEGの皆さん、是非、平成11年度は新潟へお越し下さい。新潟県連合会一同心からお待ち申し上げます。

第23号　平成９年（1997年）８月 (6)

直接話そう！直接交流しよう！ 姉妹提携 YEG

平成２年３月に行った浜田・黒部ＹＥＧの姉妹締結は、この「縁生」がご縁でした。当時、浜田ＹＥＧでは、夏のイベントとして、大規模な野外コンサートを毎年開催しておりました。（1990年度より８回開催。現在は休止中。）

そんな折、同じ日本海側の同規模の都市で、やはり１万人規模の野外コンサートを定期的に開催しておられる黒部ＹＥＧの事を、「縁生」の活動報告で拝見し、お話したのが始まりです。折り返し、基本とも姉妹締結をとの話を黒部サイドより頂き、また当時の黒部ＹＥＧ川端会長の熱様が、山陰のご出身ということもあり、きっそく川端会長に浜田までお越し頂き、年度内には黒部市において姉妹調印式に至りました。その後は互いの市へ一度ずつ訪問を行いましたが、遠路という事もあり、今では全国大会の折にお会いし、情報交換を行うのが現状です。

共同の事業等は行っておりませんが、立地も含め、同様の境遇にある青年部として、自知の友人の様に、その存在だけで互いの励みとなる姉妹青年部関係として、今後とも、末の綻らないお付合いを続けて行きたいと思います。

また、現在浜田市では、平成４年の中国横断道開通、平成５年の県立国際短期大学開学、平成８年の世界こども美術館の開館、４年間大学の設置、浜田港５万４岸壁等と日まぐるしくハードの整備が進められております。青年部としてはこれらのハードを最大限に活かすべく、地域のソフト集団たる自覚をもって活動を展開しております。

平成11年には、中国ブロック大会誘致にも名乗りを上げております。変わりつつある浜田市に画青連の皆様、是非一度きてみんちゃい。

①姉妹提携時期
1994年12月21日（平成６年）
②いきさつと目的
魚津ＹＥＧは、平成６年度に設立20周年記念事業の一環として姉妹提携事業を行うことにしました。姉妹提携ＹＥＧとして関東首都圏で港を探ち、異国情緒をもつ横須賀ＹＥＧに打診したところ快く受けていただきました。両ＹＥＧでは人と情報の交流を行うことで両地域の更なる発展を目的として交流を進めていきたいと思います。
③メリット
ＹＥＧだけでなく親商工会議所・婦人会との友好の輪が広がりました。
④姉妹事業の現状
毎年双方のＹＥＧへ出向いて祭りなどに参加している。
⑤将来展望
現状を維持しながら、情報交換、ＹＥＧ勉強会、個々の事業展開などに役立てたい。
⑥新規提携の計画
希望があれば、前向きに検討します。
⑦事業・特産品・ミスコンの紹介
平成９年度は、「広げよう地場ネット　生かそうＹＥＧネット」を合い言葉に各種事業に取り組みます。昨年からの継続事業として、ＹＥＧの酒「じゃんと恋」純米大吟醸が本年８月いよいよ発売されます。また、８月７日から開催される魚津まつりでは、ＹＥＧが主管となって、８月８日に従来のミススリークイーンコンテストから装いも新たに「コンテスタ・デ・小町　じゃんと恋Ｖ」を行い、「うおづ小町」「しんきろう小町」「たてもん小町」を選出します。

ホタルイカ

手作りダンボール舟レース

スーパードミノ

♥姉妹ＹＥＧ

高岡（富山）	関（岐阜）
氷見（富山）	大町（長野）
魚津（富山）	横須賀（神奈川）
黒部（富山）	浜田（島根）
水戸（茨城）	敦賀（福井）
洲本（兵庫）	大田（島根）
江戸川（東京）	鶴岡（山形）
長門（山口）	米子（鳥取）
別府（大分）	指宿（鹿児島）
大村（長崎）	沖縄（沖縄）
米沢（山形）	高鍋（宮崎）

誌面の都合上掲載できなかったＹＥＧは次回に掲載させていただきます。

我が大田商工会議所青年部は、来年度で創立20周年を迎えようとしております。姉本商工会議所青年部と姉妹締結した年が10周年の翌年であったことを、今思いおこしております。

昭和63年、10周年を迎えた年に渉外委員会が、「そろそろ対外的に交流を行い、視野を広めていこう」との考えのもとに、姉妹締結の調査事業を開始したのであります。歴史、文化、産業の共通点、また人口の割合はどうかなどを検討した結果、兵庫県洲本市を11月19日に視察しました。瓦の産地というのがお互いの産業の共通点でありまして、その時に淡路瓦の工場などを見せていただきました。

平成元年、私が渉外委員会の理事になりました。前年に引き続き洲本さんと交流を進めることとなり、お互いに訪問し親睦を深め、気軽に話を交わす間柄になりました。そして８月３日、洲本市の「海月館」にて姉妹締結調印式が挙行され、洲本市長、洲本商工会議所会頭等ご来賓の方々とも親しく話し合うことができ、市長からは洲本市のイベントへの積極的な参加を期待するとの要請がありました。

当面は、お互いのイベントに参加することにより友好の輪を広げ、良いところは吸収していこうということで姉妹関係が始まりました。それから今日に至るまで、友好青年部としてブロック大会、例年事業、地元の祭等への参加を続け、全国大会の時には懇食会を催したりしてきております。

締結みをしてから、この８月で８年がこようとしています。そろそろ、もう一歩踏み込んで、「共に学びあう」始めかなと考えているところであります。

①提携時期　平成６年12月21日
②いきさつ　　それは前触れもなくやってきました。ある日一通の書類が事務局の元へ…そこには「友好姉妹提携」の６文字が…是非商工会議所青年部・婦人会と共に魚津と横須賀の友好姉妹提携を、とのことでした。

この中には熱がある大都市の青年部との交流を深めたいとの主旨が書いてあり、これを読んだ役員は「横須賀が大都市？」と首をかしげてしまいましたが、そうこうしているうちに魚津の会長さんたちが横須賀にみえられ、まずはお見合い…横須賀が大都市であるという誤解を解かなければと話をし現状を説明した上でも是非よろしくとのことでしたので、こちらからも歓迎の意思を伝えました。

その後行われた魚津商工会議所青年部・婦人会の20周年記念式典に早速招待を受け、当日友好姉妹提携調印式も執り行い、めでたくゴールインっではなくスタートしたのであります。魚津の皆さんはこちらが恐縮するくらいの気配りで歓迎してくれました。これからも末永いおつき合いでお互いの情報交換・また親交を深めていければと思います。

③メリット　　情報交換や文化交流といった面において、今後の青年部の発展に寄与する活動であると考えます。
④現状　　年１回の親睦会開催等、必要に応じて積極的に取り組んでおります。
⑤将来展望　　21世紀に向けて、姉都市との連携を高め、活力とにぎわいのある青年部の基盤作りを目指します。

わが町水戸が誇る天然塩が最期を迎えた地、敦賀。

その敦賀ＹＥＧとの交流が始まったのは平成３年９月16日水戸ＹＥＧの創立15周年記念式典でのことでした。敦賀ＹＥＧ会長はじめ多くの会員の参加をいただいて「青年部活動の活性化、自らの人間性と組織能力の向上、地域社会への貢献等に関して活動のレベルアップを図る」ことを目的に調印式を行ないました。

水戸と敦賀は距離的にかなり離れているにもかかわらず毎年恒例の全国大会において交流を図っており、ＹＥＧの事業や組織、地域社会についてお互いに忌憚のない意見交換を行なっています。

その一端として、平成４年の敦賀15周年記念大会や、昨年の水戸20周年記念大会などの記念事業ではお互い交流を深めています。

また、平成５年に行われた「敦賀まつり」にも参加させて頂き、水戸納豆、助さん、格さんに扮したメンバーが、水戸の銘菓や納豆などの特産品を販売し、チャリティー募金を行ないました。おまつりにおいて姉妹都市の物産を市民の方にＰＲすることは非常に大事なことだと感じられました。

今のところ、今後の交流について特に計画はありませんが、日本海と太平洋、食べる物も違えば考え方も異なります。そのようなＹＥＧ同士が地域社会において特徴を活かした交流を深め、地域社会に貢献していくことは非常に有意義なことであると考えます。

平成10年には水戸商工会議所青年部主管において関東ブロック大会が開催されますが、このような交流事業がきっと役に立つものと確信しております。

"ＹＥＧの姉妹締結"は、まさに、出会いから交流そして連携という、ＹＥＧ新時代に必要な事業だと考えます。

沖縄ＹＥＧと大村ＹＥＧが姉妹締結を締結して、15年目に入ろうとしています。当時大村ＹＥＧは、第３回九州ブロック運営研究会が開催されることになっており、かねてより交流を深めていた沖縄ＹＥＧとの姉妹締結が、大会前に締結調印されました。当時は、全国479会議所中、青年部は194単会（40％）程にすぎませんでした。そうした意味からもこの姉妹締結は、全国のＹＥＧから注目を浴びていました。この姉妹締結の目的は、友情と連帯を深め、お互いの経済や文化等の交流を図り、両地域の発展に寄与していくことでありました。

今日までを振り返りますと、お互いの地域での物産展を開催・紹介することを皮切りに、人と人との交流を深めてきました。そういった中で、沖縄ＹＥＧの仲間達との交流を通じ、今問題になっている基地の移転等、沖縄の方々が戦後以来苦しまれてきた歴史の背景が、我が身のように切実に感じられ、この問題がいい方向で解決していくことを願っております。

平成９年度関青連のスローガンは"直接交流・直接実感、連携そして共生へ。ＹＥＧ新たなる出発"でありますが、「姉妹締結」における交流は、まさにスローガンそのものではないでしょうか。

私たち大村ＹＥＧは、これからも諸先輩の方々が努力を重ねてきたこの姉妹締結を、これからも大事にして行き、且つお互いの友情と連携を深め、経済、文化等に繁栄させていきたいと考えております。

第15回商工会議所青年部全国会長研修会

熱き友情、熱き実践
見せようわがYEGの団結を！
「来たれ掛川道場」

会長　河原崎　憲雄

平成九年度「直接交流・直接家族」連携をテーマに掲げたYEG新たな出発の商青連ローダーのもと、第23回商工会議所青年部全国会長研修会は静岡県掛川市商工会議所青年部主管のもと、静岡県商工会議所青年部連合会に諸王皆のご協力を仰ぎ、掛川市において開催させていただきます。

静岡県には、日本一高い山富士山があります。富士山は日本を象徴する山であり、世界の人が憧れる山であります。この富士山のように、静岡県は今国にあらゆる問題を受容する県であります。また、豊富な資源、豊かな自然、優れた歴史や文化の遺産、そして新幹・太閤という二大偉人を輩出する中国にある恵まれた県土の立地は、産業経済、文化、観光、スポーツ、その他あらゆる世界で全国の中部地域として発展しております。

日本列島のどまん中に位置する静岡県掛川市に、平成8年3月1日～16日、一人でも多くの青年部の仲間にお集まり戴き、情報が有意義な研修会ができるよう数々の準備を進めております。掛川市は不易流行の理念の下に、種苗の地であります。種苗産業の発展は、掛川城築城400年、徳川家康公のもとに発展し、物が豊かに溢れ、物の豊かさに溺れ、物へのあくなき、心の豊かさを忘れかけている現在、産業・経済・経済を犯罪・犯罪を撲滅する中で、気の緩みを締め直す一つの準備として、全国の仲間のリーダーの皆様に"地域資源を通じ経済哲学を学ぶ"をテーマに接遇精神を学び自己研鑽に役立つ研修会を考えております。また、平成7年までは第23回目の研修会と呼んでおりましたが、平成8年からは第15回全国会長研修会と名称変更を致しました。本年度は今国会長研修会、少し厳しいのある本当の研修会であるという名称も「掛川道場」と名付けました。会長・副会長・事務局員等の皆様は各年度の主催者として皆さんの立場を考え、それぞれ今後このようなYEGの活動を行っていくべき、また、自社の発展と地域経済を担うリーダーとしての資質の向上普及の為を図っていくためにはどうすればよいか話し合い、交流を深める研修会を行ないたいと思います。

市政地域活性、教育の時代、経済が一人多きし道徳の心を忘れかけている現在、もう一度蘇えらせたがを踏の癒し、21世紀に向けて人の先導者となるようYEG活動となる使命を考えようではありませんか。

全国の青年部の皆様方に、掛川市にお越し頂き、楽しさもあるが、また、楽しさもある温かみのある会員研修会になりますよう掛川YEGは"熱き友情、熱き実践、見せようわがYEGの団結を"をスローガンに一丸となって準備を進め、全国会員研修会にご出席戴けるために、主催青年部として掛川YEGは全員、精一杯頑張りますので宜しくお願い致します。

特別委員会　新たなる出発！

委員長　八木　秀和

今年で3年目を迎える特別委員会が、おかげさまで12日さらなる「YEG連携」を推進するために体制でスタートをきりました。

商青連25年目にあたり「YEG連携」が現状を打破するための活動である、人と組織の仁空流を実践、情報を交換し、問題解決する「直接交流・直接家族」により、転換の時代、中小企業の将来を創造しましょう！社会変革事業である事を全国に発信してゆく使命があります。3年目となる連携事業の推進と、新たに小委員会による同業種交流の研究と推進を二本の大きな柱として活動します。

連携事業の推進は、全国のYEGにもっともっと連携事業のメリットを知ってもらい、各地で連携事業が活発に行なわれるよう、現全国YEGのネットワークを活用し情報からこそできる地域の同業者と交流を計り情報を交換し現状把握から打開策を探り、実践の目標を掲げることにしてゆきます。

とりわけ本年度は、商青連との関わりを出向事以外のパートでつくり、商青連活動の活性化につなげるために仕事との関係の中でアシストレフレーナーとして活動を行なう意味で全国各地のYEGメンバー公募と専門委員として様々

ていただきました。地域連携・商業・都市整備・建設小委員会にわかれ活発な活動を展開していただきます。

各専門委員会では、来年のスタートにたち今後への試金石となるようYEGのみなる連携を推進し「来たれ」と唱えたわれ商青連として全国各単会へ発信してゆきます。

商青連特別委員会小委員会名簿

役職名	ブロック名	氏名	単会名
委員長	中部	鈴木　博文	磐田
副委員長	関東	八木　秀和	熊谷
小委員会名	小委員長	鈴木　明	一関
地域連携	専門委員	佐藤　行春	野辺
	関東	佐々木　正	秋田
	関西	朝日　宏雄	大阪
	関東	山下　孝行	鳥谷
	北陸		
	四国	菊田　宣	高知
商業	小委員長	南部　康隆	大野
	関東	大川　伸夫	松戸
	北陸	竹田　父	村上
	北陸	石塚　義清	宮崎
	北陸	高橋　新太	八尾
	中国	藤田　正広	小野
	四国		
	九州	洋和　清貴	宮崎
都市整備	小委員長	小泉　武雄	高松
	東北	佐藤　一	郡山
	東北	田中　勝又	一関
	北陸	石川　勝雄	敦賀
	近畿	今西　秀宏	宮津
	中国	津村　芳雄	福山
	九州	江藤　豊	鹿本
建設・不動産	小委員長	川西　弘二	長崎
	東北	矢竹　聖	盛岡
	東北	中澤　義範	八戸
	関東	阿部　文男	富岡
	関東	増田　秀文	熊谷
	東海	伊藤　正幸	豊田
	四国	林　英雄	阿南
	九州	平郡　孔介	宮崎
物販・サービス	小委員長	中川　清	大田
	東北	斎藤　隆一	米沢
	東北	渡部　勝平	酒田
	関東	井沢　学	大田
	関東	鈴木　章	藤沢
	関東	小澤　昌彦	小田原
	東海	東郷　七智	平田
	近畿	松田　信夫	宮津
	北陸	佐藤　勉	金沢
	九州	小代　義之	唐津

「人の交流」が「地域連携」のはじまり

33万都市、われらの郡山市の発展は、「直接関係」に始まった。

明治9年から百年にかけ、二本松藩に属し、久留米、藩倉、郡山、白河、会津、松山、米沢、全国9藩の旧士族が破産、この空洞の地に入植した。これが始まり、久留米百人組移住になる。

古代の昔として、万葉集に、「安積山影さえ見ゆる山の井の浅き心を我が思わなくに」と詠まれ、これを古今和歌集の序文で紹介され、歌のもとは、江戸時代には、百歳を見にきた。また、参勤交代する「うねめ」の伝説で、奈良市と郡山市は姉妹都市である。古代から、郡山は、北国のロマンあふれるスロンティアであった。

幕末、郡山から、天変地の子孫がやってきた。われわれ郡山産工会議所青年部が、歴史の変に埋もれつつある人間の地に建設した、郡山高の門の両石柱の銘表碑を見るために、その子孫は、同窓会の文集で自分の祖先の名が刻まれた石碑ができたことを知った。郡山には、今は、郡山藩の人様者の子孫はいないとされる。そんな時で、自分の先祖の成し遂げた業績を称える碑があることに、その喜びは動かされた。言入は嬉しかったに違いない。でも、それ以上にわれわれが嬉しかった。

こんな出会いがあってみたい。郡山産工会議所青年部は、安積開拓150年の今年、こんな思いで、全国のYEGの仲間との交流を深めるつもりだ。

郡山YEG地域開発委員会　関根　信

しんきろうの不思議？

しんきろうのはなし

4月から6月にかけての2、3日間天の晴れ、フェーン現象発現の日、暖やかな海面にその情景が映くと、出現します。対岸の郡山新港や郡山市の街並が、のび上がったり、船が浮かになったり、または光下の情緒が現れます。

また、11月から2月にかけて寒い日には「そのしんきろう」がよく出ます。春のしんきろうは上方に像が出るのに対し冬のしんきろうは下方に像が出ます。

しんきろうは古来より有名で1584年に上杉謙信が海岸中で見たという記録もあり、時には八マグロのむく様と言われたり「鬼の海」「青炎城」などと言われたこともあります。

冬のしんきろう

夏の蜃気楼

♥しんきろう手帳は、MICへ
（TEL:0569-82-3188
（インターネット）
http://www.mic.co.jp/mic/

広報委員会（郡山商工会議所YEG）
鈴木　博信